

右貴政府之意見ハ我國政府ニ於テ精密ニ調査可致候得ハ確定ノ結末ニ至リ候次第直チニ其義御通暢可申候右回答如斯候敬具

千八百七十九年一月卅一日 於海牙府

外務卿

ハンヘツケルンハンケール

在伯林

青木日本全權公使閣下

四二二 明治十三年五月二十日

青木駐獨公使ヨリ
寺島外務卿宛

明治十二年五月廿九日附來別信廿五號拔萃

註 對獨交涉四一五號參照

第六節 對 奧 交 涉

四二三 明治十一年八月十八日

本間在奧洪公使館二等書記官ヨリ
寺島外務卿宛

條約改正交渉開始ノ旨報告ノ件

別 啓

八月四日到

條約重修稅權收據の事件は篤に當政府へ可申立候處前便も申上置候通り鮫島公使より來信の旨に従ひ差控居候處去月廿一日迄に同公使より送越候書類總て調ひ候につき同月廿四日別紙寫の通り書簡外務卿へ差出候

該件は重大の義殊に兼て御令達の趣も有之候につき外務卿へ直談可仕筈の處當國の外務卿は總て輔官へ應接を委任し自ら延見いたさず候^{已前は逢日有之候へ共今は廢}却し大使と雖も延見いたさず然し一應面晤の義申入候得共今極て繁多にて延接容易に出來兼候由につき無據大輔バロンオルチエー氏へ本件の略概口述の上右寫通り外務卿宛書簡及譯文に訓狀寫を添へ差出し外務卿へ可然取次ぎ我政府要求する所貫徹候様周旋具申述候

大輔バロンアリツセには已前公使として日本に駐在候人故同氏へも一通り面話仕置候

大輔バロンシウエーデル氏は専ら貿易に關候事故同人へも一通り談し置候

輔官よりの答辭左の如く候

此一件は御書簡及訓狀寫共送熟覽候上にて協議を遂げ

蘭政府ヨリノ答翰他國ノ抗論ニ擬スル如キ旨ノ情報
通達ノ件

一別紙和蘭政府ヨリノ投東復寫ヲ以テ差進候右ニテ御見認可被成通先前我ヨリ致提出候稅權回復ノ儀ハ同政府ニテモ他國ノ抗議ニ擬似シ却テ「コンベンションナル、タリフ」ヲ可維持致建言候猶本月四日致赴任候新辦理公使義ハ新條約ヲ結約スル權利無之唯々我政府ノ建言ヲ取テ之ヲ本國政府へ可紹介教令而已持參候敷ニ相響候處此義ニ付テハ下官義先日海牙へ出張ノ際外務卿「フアン、ヘーケレン、フアンゲル」氏ト種々應接ノ末果シテ全權須要ノ機ニ臨ミ候ハ、電信ヲ以テ可附之云々同人ヨリ申聞候

註 別紙見當ラズ

附屬書

明治十一年五月二十四日 本間在奧洪公使館事務取扱ヨリ奧洪國外務卿宛書翰寫

條約改正要求ノ趣旨開陳ノ件

議院とも打合せ候上にて可及御答候得共條約重修の義は外國に就中東洋貿易の三分の二を占め居候英國等と打合せ無之獨り掛離れ取計候事に至り兼候然し公平を目的として取計候義は貴下に向て證する處に候
右外務卿宛書簡は鮫島上野青木公使等協議の上被製候文案に倣ひ候ものに御座候

訓狀の譯は鮫島公使より被廻候佛文を用候

先つ該件は右迄の運に到り候餘は追々御報告及へく候敬具
十一年六月十八日

在維也納

二等書記官 本間 清雄

外務卿 寺島宗則殿

附屬書

寫

以書翰致啓上候然ハ奧地利匈牙利と日本との間に取結候條約改正の義につき我政府より拙者に付與相成候訓狀寫及其譯文差出置候依て我政府にて右の要求を企候主意を擴充し左に申述候

今般我政府に於て條約を改正せんとするは日本國固有の諸

權を回復し就中海關稅額を定め通商規則を制するの全權を得むとするか爲に有之候事別紙訓狀寫に載記の通に有之候總して獨立の國は何れも内外通商の規則を便宜制定するの全權を有する事は今更申進候迄も無之候右の權利は諸種の主權中最も明確にして萬國共に許認する者に候處我國は今を距る二十年前實歴の未た足らざりしか爲め外國との條約に由て一時此權を停止せられ候得共最早今日に至りては之を回復し再び完全なる自主を得ん事至當の義と存候尤條約中雙方の都合に依り之を改正すべしとの明文有之候は閣下御承知の通りに候假令其明文無之とも我政府に於ては通商條約は永久不易と認むべき者に非ず其性質たる時勢に應じて變換せざるべからざるものにつき近年我國の政圖人心國勢共大に變革せし事而已にても既に條約を改正すへき十分の原由とするに足り可申と存候

右大綱の外猶内國の情實に於て條約改正を要するの條理左に略説いたし候間篤と御熟考被下度候抑我政府の經費多端なるに依り歳入を増加せざる可からず且直稅を課して之に代ゆるの法を求めざる可からず然のみならず我國人新に工業を開かんとする者不少候處海關の輸入稅薄少にして無稅

易之か爲に盛大ならず外商は皆商事の衰微を歎せざる者無之候此商事の衰微は固より種々の原因可有之候へ共我政府にては殊に輸出の寡少なるに基き候事と相考候輸出物の全額は數年を平均すれば僅に輸入物の三分の二に過ぎず其差は正金を以て支消致候につき金貨日々減し内國の疲弊を招貿易の衰微を來したる事自然の勢に有之候依て方今の形勢を考ふるに此患を除くは輸出を増し輸出入略平均を得るに至らしむる事必要に可有之就ては我國物品の輸出稅を廢すれば内國產の輸出増加すへき事疑なく隨て外貨の需要輸入も亦増加可致につき我政府は彌見込の通り條約改正相整ひ候上は輸出稅を廢止可致積に有之候然る時は我國產物の價格減下すへきは勿論につき外商も亦之か爲め利益を得べく候

末段に於て猶一个條を述へ閣下の御考慮に供度義は假令前に陳する如く輸出入増加すべしとの期望は架空に屬するにもせよ貿易の振起すべからざる明白なるにもせよ輸出入稅を改正する共萬々之を挽回する能はざること昭々たるにもせよ我政府に於ては之を以て其論旨を辯破するには足るべしとは認め不申候抑本件之目的は唯貿易上而已ならず更に

に齊きより漸く起らむとする工業も外貨の爲に壓潰され候勢につき不得止土地相應の産業をして目的に達せしめ挫折するの患免れしむへき様何程か保護を與ふるは我政府の義務と存候且又即今の如く輸入稅殆ど有名無實の姿にては内國同種の產物に課稅候義不相叶正當の不直稅も之か爲めに徵收するを得ずして許多の歳入を増すべき財源空耗いたし候

右の通り施政理財勸業上種々の情實有之候につき我政府は自國の需用と便宜とを謀り適意に海關稅則を定むるの權利を回復せむとするは即今の形勢に於て無據處義と相考候尤本件の商議につひては他に種々論及の箇條も可有之候へ共最も我政府の主旨とする所は稅權の一條に有之候將又右に略陳いたし候條理の外閣下に申述度儀は即ち締盟各國は我國をして僅に元價百分の五に過ぎざる輸入稅而已を課すべき義務を負しめられ候得共却て我國產を處するに於ては彼我互相の例を用ゆるの國一も無之我國產は其種類に應し各國の海關に於て皆重き輸入稅を課され候斯く我にては外國に對し例外の便宜を與へ候へ共輸入之か爲に盛ならず數年來外貨の賣買増加せず且輸入稅は有名無實なるも貿

重大緊要の關係ある者にして我國と外國との交際は是迄の如く偏に貿易の利而已に基て之を處すべきに非ず本件の主眼は我日本國の公益と公利とに在る事於閣下は勿論御承認可被下義と深く信用期望致候敬具

明治十一年五月廿四日

在維也納

日本公使館事務取扱

本間 清雄

手記

帝國外務卿

グラーフアンダラー閣下

四二四 明治十二年八月十四日

本間在埃洪公使館二等書記官ヨリ 寺島外務卿宛

條約改正ニ關スル埃洪國外務卿代理來翰送付ノ件

附屬書

明治十一年七月三十日埃洪國外相代理ヨリ本間在埃洪公使館二等書記官宛書翰寫

條約改正要求ニ對シ回答ノ件

九月三十日對

別 啓

條約重修の儀は兎角埒明不申漸く別紙寫及譯の通り外務省より來翰有之候

輔官の言に何れにも來る秋冬にかけ全權公使を日本へ派出する事に略決定候故假令條約重修の運に致り候も其頃に到らされは着手の事に到り兼候云々左すれば急に決着に答有之間敷候且又魯土戰爭及伯林會議續て方今ボスニアンの騷動旁以急速には運び申間敷と掛念不渺候右得御意度如斯御座候敬具

十一年八月十四日

在澳國日本公使館

二等書記官 本間 清雄

外務卿 寺島宗則殿

附屬書

譯

去る五月三十日附貴翰を以て貴政府歐洲各國と被取結候貿易條約殊に千八百六十九年澳洪國と被取結候條約重修被成度御見込の旨御申越の趣承知いたし候貴政府の此運びに至られし理由篤と瞭解いたし候へは此件に付其筋官省へ打合せ可申候へ其右件は重大の事にして其決定は深考熟慮を要

し候へは拙者只今御即答候譯に至り兼候就ては我皇帝兼王陛下の政府は右件の穩適なる決に至らむ様精々盡力可致を貴下へ申進右不取敢御報及候迄如是候敬具

維府於て千八百七十八年七月三十日

外務卿代理

シェウーゲル

(右原文)

III 2534

Vienne le 30 Juillet 1878

Monsieur le Chargé d'Affaires!

Par votre note en date du 31 Mai dernier Vous avez bien voulu me faire connaitre l'intention du Gouvernement japonais, de soumettre à une revision les divers traités de commerce, conclu avec les puissances Européennes, notamment celui du 18 octobre 1869 conclu avec l'Autriche-Hongrie.

Tout en appreciant les motifs, qui ont pu dicter cette demarche à votre Gouvernement, je n'en ai pas du saisir de la question soulevée les ministères compétents.

Mais, comme il s'agit ici de graves intérêts et que

les propositions faites demandent un examen approfondi et long, je ne suis pas encore à même de vous faire une réponse définitive, et je me borne pour le moment à vous informer de l'état, où en est l'affaire, en vous assurant que le Gouvernement de sa Majesté Impériale et Royale Apostolique fera tout son possible, pour contribuer à une solution satisfaisante de cette question.

Je saisis cette occasion pour vous renouveler, Monsieur le Chargé d'Affaires, l'assurance de ma considération distinguée.

Pour le Ministre des Affaires Etrangères:

Le Chef de Section

(signé) SCHWEGEL

A Monsieur Kiyo-o Hongma

Chargé d'Affaires du Japon.

四二五 明治十一年一月六日

本間在澳洪公使館二等書記官ヨ
森外務大輔宛

條約改正交渉遷延事情報告ノ件

別啓

十二月廿四日到

條約重修の義につき當澳國よりは未だ何たる決答は無之候へ其内議の模様承り合せ候處自今多端に際し候も等閑に附候譯に無之多少進歩の由に候然し過便も申上候通り該件は何分他の政府と掛け離れ獨斷の決答出來兼候故各政府と打合せざるを得ず故に自然手間取れ候も我より要望の主意は大概是應諾の場合にも至るへき内決のよしに候へ其現今在日本の公使なき故直接の報告を缺き又假令其重修の事に取掛り候も之を他國の公使へ委任候譯にも至り兼候故何れにも三四ヶ月中に公使を派出し其件に着手させ候積りを以て已に既に其人も撰舉相成候由に御座候

右の次第に候へは彌公使派出の運に至り候は、公然書簡以て該件の答辭可有之事と存候

右得御意度如此御座候敬具

明治十一年十一月六日

在維也納

二等書記官 本間 清雄

外務大輔 森 有禮殿